

# 続 隠れ水俣病

／今後の焦点を聞く／

語る人

チッソ専務

入江寛二氏

(チッソ本社で、久我総務部長、柳山総務課長も同席)

水俣病のドベの中にはまだ無機水銀が残っており、これが有機化するおそれもあるという。市議会で市長は埋め立てた

入江 きれいな水が、水俣と名のつくものが、確かに残っている。これを埋め立てて世間の不安をなくすのはいいことだと思ふ。水俣市ではこの問題とは別に、新しい都市計画に基づいて、新しい都市計画に基づいて、埋め立て、築港のプランがあるようなので、チッソの方でこれに合わせて分相応の協力をさせていたが、

公の決定には従う

厚生省、県、市で近く水俣病関係の一斉健康調査をやることが、これで認定患者がふえた

場合、見舞い金を払うかどうか。入江 これまでも公的機関の決定にはすべて従ってきた。改めてそのような決定があれば、当然、従来と同じにさせていた

入江 これまでも公的機関の決定にはすべて従ってきた。改めてそのような決定があれば、当然、従来と同じにさせていた

入江 これまでも公的機関の決定にはすべて従ってきた。改めてそのような決定があれば、当然、従来と同じにさせていた

入江 これまでも公的機関の決定にはすべて従ってきた。改めてそのような決定があれば、当然、従来と同じにさせていた

入江 これまでも公的機関の決定にはすべて従ってきた。改めてそのような決定があれば、当然、従来と同じにさせていた

## 水俣の繁栄に協力 本当の意味の償いを

厚生省が病態そのものを認定するの。行政的に不当であ

入江 これまでも公的機関の決定にはすべて従ってきた。改めてそのような決定があれば、当然、従来と同じにさせていた

入江 これまでも公的機関の決定にはすべて従ってきた。改めてそのような決定があれば、当然、従来と同じにさせていた

入江 これまでも公的機関の決定にはすべて従ってきた。改めてそのような決定があれば、当然、従来と同じにさせていた

入江 これまでも公的機関の決定にはすべて従ってきた。改めてそのような決定があれば、当然、従来と同じにさせていた

入江 これまでも公的機関の決定にはすべて従ってきた。改めてそのような決定があれば、当然、従来と同じにさせていた



調査にも物心両面の協力を惜しまないと語る入江専務

<7>

に出ても、裁判所側は別建て組をまた一括して審理することになるんじゃないかな。

困難な和解形式

これら一連の水俣病裁判について「和解」というものを考えているかどうか。

入江 それはね、わたしはね。(いくら)か身を乗り出す格好で公衆病認定当時のいきさつからくわしく話したあと、訴訴派の人たちは黙って不満があるわけではなく、もともと和解形式の解決には反対の人た

対してその遺族を出すことになるか。

入江 いやあ、いま裁判の真ん中ですよ。会社側が負けることになってはいないんだし、(笑) ちよつとその想定には答へられませんね。

混乱に終わった総会

最近一度の株主総会で、一株株主と告発する会の動きがクロージングされたが、今後なにか総会対策といったものは。

入江 一株株主にもいろんなグループがあり、その中にはまた派がありで、統一リーダーも見あたらぬ。会社としては、商法上のルールに従ってやるだけ、決して一株株主を毛ぎら

入江 一株株主にもいろんなグループがあり、その中にはまた派がありで、統一リーダーも見あたらぬ。会社としては、商法上のルールに従ってやるだけ、決して一株株主を毛ぎら

入江 一株株主にもいろんなグループがあり、その中にはまた派がありで、統一リーダーも見あたらぬ。会社としては、商法上のルールに従ってやるだけ、決して一株株主を毛ぎら

入江 一株株主にもいろんなグループがあり、その中にはまた派がありで、統一リーダーも見あたらぬ。会社としては、商法上のルールに従ってやるだけ、決して一株株主を毛ぎら

入江 一株株主にもいろんなグループがあり、その中にはまた派がありで、統一リーダーも見あたらぬ。会社としては、商法上のルールに従ってやるだけ、決して一株株主を毛ぎら

かみくし、お互い次元の問題をぶつけあう場面もしばしば。困ったものだと思ひますね。いまの社会情勢下では、あらゆる場面にこういう現象が出ていますね。

水俣病について被害者は患者だけではなく、市民も直接間接被害を受けているとの声がある。これに対する償いをどう考えているか。

入江 お説の通りで、会社もこの問題については心を痛めている。償いの最大の方法は、チッソが過去六十年の歴史を受け継ぎ、水俣における事業をさらに維持・発展させ、同時に地域社会の繁栄に寄与することだと思ふ。現に、通産省や金融協会は「なんで水俣あたりに投資するの。経営者はアホではないか」という人もいる。各種条件を考えると、純資本主義的には確かにそうだ。しかしわたしたちは水俣撤退について計画したことも、考えたこともない。ご承知のように水俣病問題後も同地には新事業、関連企業の充実も含めて七十億もの投資をしてきた。水俣市に金一封を、次に次の低いものではなく、地元雇用の維持も含めて、水俣の人たちとともに繁栄することこそが水俣の真の意味の償いだろう。(約一時間、終始慎重でソフトな応答ぶりだった)